

小 学 校

平 成 12 年 度

教育研究員研究報告書

生 活

東京都教育委員会

平成12年度

教育研究員（生活）名簿

地 区 名		学 校 名	氏 名
中	央	泰 明 小	古 瀬 博 子
墨	田	第 四 吾 孺 小	山 本 光 江
大	田	中 萩 中 小	◎ 太屋岡 幸 枝
世	田 谷	花 見 堂 小	加 覧 淳 子
杉	並	永 福 南 小	友 部 尚 子
	北	第 三 岩 淵 小	中 嶋 美 香
練	馬	南 田 中 小	○ 堀 口 明 子
江	戸 川	船 堀 第 二 小	高 藤 伸 子
八	王 子	第 八 小	横 山 淳 子
調	布	染 地 小	下 袴 田 光 子
国	立	国 立 第 七 小	河 合 千 代
武 蔵 村 山		雷 塚 小	目 杉 玲 子

◎ 世話人 ○ 副世話人

担当 都立多摩教育研究所 指導主事 渡 邊 守

目 次

I	研究主題について（主題設定の理由）	2
II	研究の構想	3
III	研究の内容	4
	1 人とのかかわりの基本的なとらえ方	4
	2 学習活動の工夫	5
	3 人とのかかわりの深まり、広がりを見取る工夫	10
	4 実態調査	11
	5 年間活動計画について	13
IV	実践事例	
	1 第1学年「わたしの大好きな家族」	14
	2 第2学年「わたしたちのまつりをしよう」	18
V	生活科年間活動計画案	22
VI	研究の成果と今後の課題	24

〈概 要〉

本研究では、児童が、人とのかかわりを深め、広げていくには学習活動をどのように工夫していけばよいかについて仮説をたてた。そして、人とのかかわりの深まり、広がりについて、①かかわりへの願いをもつ、②人と共に活動するよさを味わう、③気づきを伝えよさを認め合う、④繰り返しかかわる、という児童の4つの学びの姿を視点として学習活動を工夫し実践授業を行った。

その結果、児童は人とのかかわりを楽しむようになり、自信をもつとともに、自他のよさを積極的に見付け、多くの気づきを得るようになった。

I 研究主題について

平成12年度 生活部会研究主題 人とのかかわりを深め、広げる学習活動の工夫

<主題設定の理由>

最近の児童の実態として、核家族化、少子化、高齢化などの社会の変化に伴って、人とのかかわりが希薄化していることが挙げられている。友達とのかかわりが不可欠と思われる生活科の授業においても、自分と教師とのやり取りにとどまり、友達との教え合いや意思の疎通を上手にはかれない児童の姿が見られるようになったとの指摘もある。一方、平成10年12月に告示された小学校学習指導要領では、生活科の目標にかかわりの対象として「人々」という言葉が新たに加えられた。具体的な内容の改善では「多様な人々と触れ合う活動の充実」を挙げ、人とかかわることによって、集団や社会の一員としての自分の在り方を考えたり、人と適切に接したりできるようにすることが、自立への基礎を養う上で重要なことであるとしている。多様な人々と触れ合う活動を充実させていくことは、生活科の重要な課題であるといえるであろう。

実践例（第1学年）单元名「わたしにもできるよ」

「お手伝いは、めんどくさいから好きではない。」と言っていたM児であったが、掃除名人と一緒に友達3人で教室や廊下の掃除をし、ほこりやごみをきれいにとることができた。掃除名人にやり方やコツを教えてもらったことがきっかけとなって、掃除がおもしろくなった。また、一生懸命にやっていたことを友達から「教室がきれいになって気持ちがいい。」「とてもがんばっていた。」などと認められた。

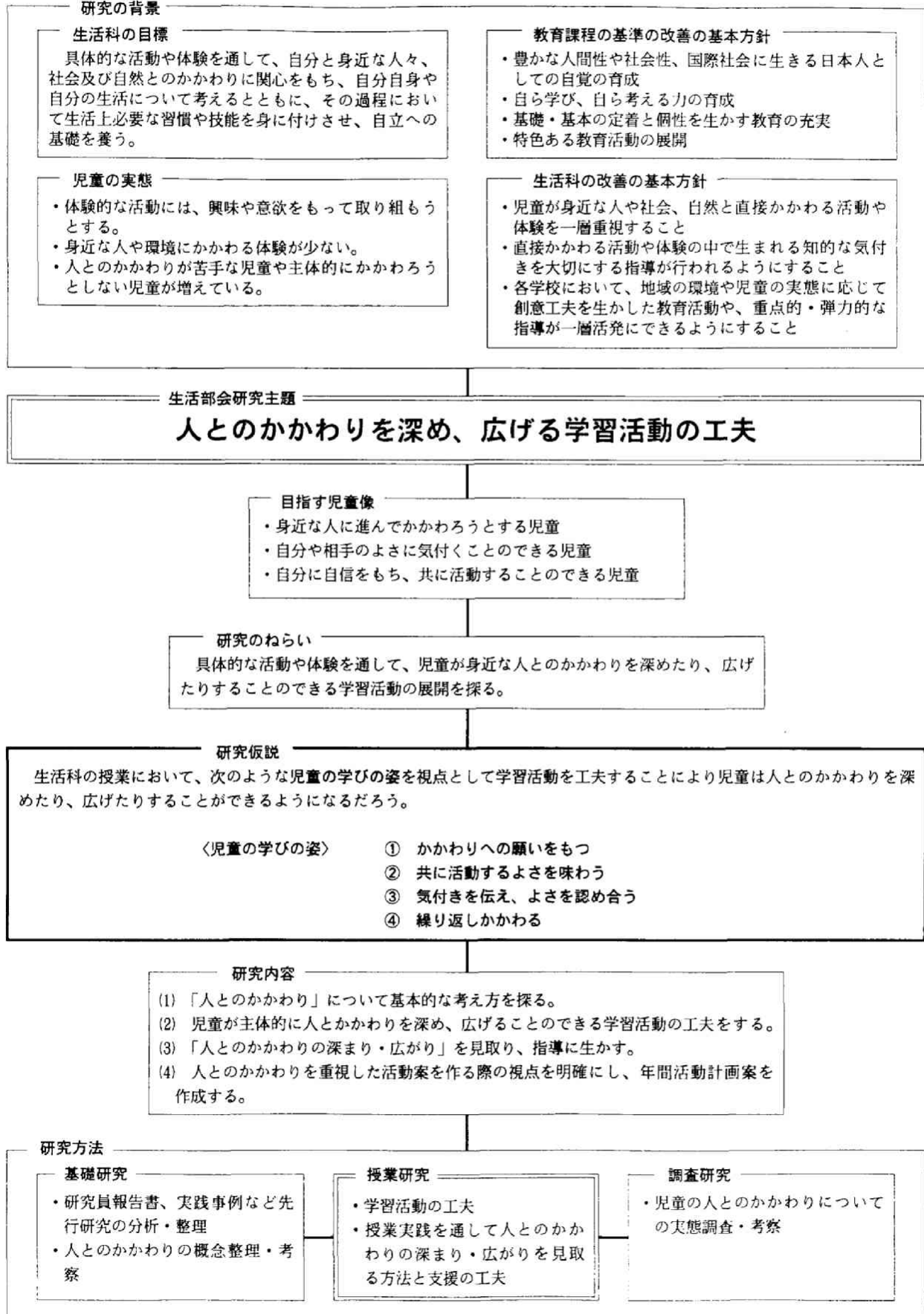
そうしたこともあって、またやりたいという願いをもつようになり、もう一度掃除名人に教えてもらうことになった。二度目に名人から、教えてもらったあとには「いろいろなところを掃除できておもしろかった。ありがとう。家でも掃除やるよ。」という感想を書いた。数日後、みんなでどんぐり笛を作った。どんぐりの実のかすが教室中に落ちていたのに気が付き「名人から教えてもらった技で掃除するときれいになるよ。」と言い新聞紙をちぎって水でぬらし、それをまいて、友達にもやり方を説明しながら掃除をしていた。

掃除名人と出会い、かかわりを通して、掃除に興味を示すとともに、自分の力でやり遂げたことを皆に認められたことで自信をもち、教えてもらったことを友達に伝えることができたのである。

児童は、人とかかわることによって活動への意欲が高まり、人に認められる経験を通して自分のよさに気づき、自信をもつことができる。人に認められることが安心感や信頼感につながり、集団の中で自分にできることを進んで行おうという意欲につながる。このような経験を積み重ねることにより、お互いのよさを認め合いながらよりよい生活をしようとする児童へと成長するであろう。

そこで、本研究では、生活科において人とかかわる活動における児童の育ちを重視し、児童が人とのかかわりを深め、広げるための学習活動を工夫することとした。そして、児童の具体的な姿を通して検証していきたいと考えた。

Ⅱ 研究の構想



Ⅲ 研究の内容

1 人とかかわりの基本的なとらえ方

本研究では、文献や先行研究を参考にしながら、「人とかかわり」「かかわりの意義」「かかわりの深まり・広がり」を、以下のようにとらえた。

(1) 人とかかわり

人に対して思いや願いをもち、相互に働きかけ合うこと

(2) かかわりの意義

- ・自分のよさや可能性への気づきを深め、人に認められている、人の役に立っているという自信をもつことができるようになる。
- ・自分と相手との共通点や相違点に気づき、自他を認め、受け入れることができるようになる。
- ・集団の中で、自分にできることを見だし、自分の役割や責任を果たそうとする意欲が育つ。

(3) かかわりの深まり・広がり

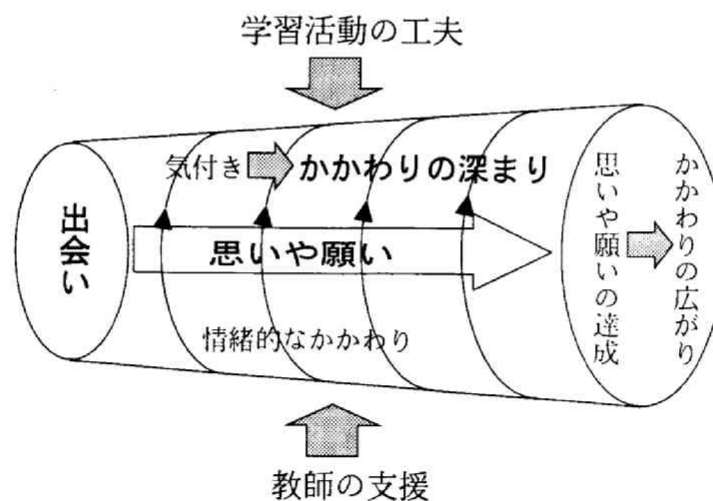
深まり

人とかかわる中から得られるものが、自分にとって価値があると感じ取り、自ら積極的にかかわりをもとうとすること。さらに、相手への思いや願いがこれまでより一層深くなり、自分と相手との距離を縮め、相互に影響し合いながら、かかわろうとすること。

広がり

人とかかわる活動を通して得た成就感、満足感、自分への自信を基に、次はこうしたい、こんな人とかかわりたいというように、自分の思いや願いが次々に転移されたり、応用されたりすること。

本研究では、「人とかかわりを深め、広げる学習活動の工夫」（そのために必要な教師の支援を含む）をすることによって、目指す児童像に迫りたい。



2 学習活動の工夫

生活科において、人とのかかわりを深め、広げる学習の過程で、児童は様々な心情面や行動面での変化を体験し、自分自身や相手への気づきを深めていく。このような学びを実現するためには児童が①かかわりへの願いをもつ、②共に活動するよさを味わう、③気づきを伝え、よさを認め合う、④繰り返しかかわることが大切であると考えた。

そこで、これら4つの学びの姿を視点として、学習活動の工夫をすることとした。

(1) かかわりへの願いをもつ

児童が自分以外の人に興味や関心をもってかかわろうとするのは、一緒に遊びたい、教えてもらいたい、自分の考えや気持ちを知ってほしい、友だちや身近な人のことを知りたいなどと思うときである。かかわりたいと願うことで児童はより主体的に活動していくと考えた。

学習活動の工夫

- ・児童の思いや願いを見取り、同じ思いや願いをもった児童同士のグループにしたり、思いや願いに沿った対象とかかわれるようにする。
- ・尊敬、感謝、驚き、興味、関心などがわき起こるような、出会いや活動の場を工夫する。
- ・過去の経験の中で、かかわって楽しかったことやできるようになったことを振り返るようにする。

【地域の方とかかわりながら、秋まき野菜を栽培する活動の例ー第1学年】

春から育ててきたアサガオなどが枯れ、涼しくなる頃からどのような植物が育てられるのか活動の見通しをもてない児童が多かった。そこで地域で長年農業を営んでいたゲストティーチャー（以下GTと表記する）の伝言として、GTが秋から栽培できる野菜の種類と育て方を教えてくれることを伝えることで、何を育てたいか育てた野菜をどうしたいか、児童に活動への願いをもたせることができた。その願いを見取り、育てたい野菜ごとにグループづくりをした。また、花壇に堆肥や肥料を入れ種をまく活動をGTとかかわりへの願いをはぐくむ場と位置付け、仕事ぶりを見たり個別に教わったりすることを大切にした。GTの人柄に触れ一緒に活動したことで、親しみと教えてもらったことへの感謝の気持ちをもった。

その後、「GTに会ったよ。挨拶ができたよ。」とGTとの再会を喜び、芽が出ると「手紙を書いて知らせよう」とかかわりへの意欲を表す児童が多くなった。



〈GTとかかわる児童〉

(2) 共に活動するよさを味わう

一緒に活動することが楽しい、人とかがわりがもててよかったと思える体験をより多くすることで、児童は身近な人に進んでかかわると考えた。また、かかわりに双方向性がないと、共に活動するよさを味わっているとは言えないととらえ、他者との双方向性が生まれる活動を工夫することにした。

学習活動の工夫

- ・十分なかがわりがもてる学習形態（グループ作りの方法など）・場の設定を考える。
- ・一人一人が役割意識をもって活動し、互いに情報交換できるように支援する。
(計画カード・活動予定の掲示など)
- ・他者とのかがわりの場面を、相互に必要感があり活動を深められる場としていく。

【協力し合いながら縁日の準備をする活動での例ー第1学年】

縁日のお店づくりでは、かがわりが深まりやすいように、同じ思いや願いをもつ3～5名のグループを編成した。また、児童が活動しやすく、かつ縁日当日に使用する体育館を活動場所とした。

少人数なので、協力の大切さやみんなで活動する楽しさを感じながら、活動中の教え合いや情報交換も多くできた。また、当初から体育館を使うことにより、広いスペースが必要なお店の準備も当日使う物を実際に使いながらスムーズにできた。

縁日の準備活動の終末に、「えんいちワクワクカード」に記入する時間を設定した。このカードに次時の予定を書き込むことにより、本時の自分の活動がどうであったかを評価することができた。また、一人一人が見通しをもってしっかりと活動することができたので、自分と相手のよさやがんばりもたくさん見付けることができた。

さらに、1年生だけの縁日の日や2年生を招待する日を事前に知らせ、それに向けて準備ができるようにした。準備が進んでいないグループは、自主的に休み時間、放課後などに活動していた。

えんいちワクワクカード()

10/2	10/3
しょうひんづくり	おりがみで いるんだし みんを くさけな
10/10	10/12
しょうひん づくり	みずせん ざいをも ってくる。

イホハカセにうしはかりにヤボンをまだから、さいごに
せいこうしてよかったわ。

【1・2年生が教え合いながら、小動物を飼育する活動での例－第1学年】

入学後まもなく、まだ学校生活に慣れていない1年生が安心して2年生とかかわれるように、1・2年生のペアをつくった。小動物の抱き方やチャボの世話の仕方を教え合い、数ヶ月一緒に世話をした。

共に活動する機会が増すごとに、2年生は教えようとする意識が高まり、1年生は、親しみをもち頼りにするようになった。



【保護者とのかかわりを大切にした、秋の活動での例－第1学年】

「あきさがしまちたんけん」の活動では、地域ごとのグループにして、通学路が秋らしく変わってきていることに気付けるようにした。また、グループごとに保護者にも入ってもらうようにした。

そうすることにより、児童は安全に活動することができ、自分たちだけでは見逃してしまうようなことにも気付くことができた。また、保護者にとっても、普段見慣れた「まち」を新鮮な視点で見ることができたり、児童一人一人のよさに気付くことができたりして有意義であった。

「つくってあそぼう」の活動では、作りたいものごとにグループをつくり、複数の保護者にも協力してもらった。例えば、マテバシイなどの固いドングリに穴を開けるときなどに、適切にかかわってもらえた。

そうすることにより、児童は、自分の作品などについて保護者に自然に話しかけることが多くなり、よりよいかかわりがもてるようになっていった。

また、体育館を使うことにより、2クラス合同でダイナミックに活動することができ、児童はより多くの人とかかわることができた。

さらに、計画カード「なにをつくろうかな」を使い、次時まで準備することや、次時に自分がすることを確認できるようにした。そうしたことにより、自分のすべきことがはっきりし、カードをもとに保護者と話をしたりして、かかわりをより深めることにもつながった。

なにをつくろうかな！(2)

1-

たねのブローチ

1. ストロウ
2. 割りばし
3. 糸(4本)
4. バンド
5. 人じんし
6. ドングリ
7. 針
8. 糸

まわりのかみポイント
まわってピンぐり
つけたねのブローチ
がでます。

(3) 気付きを伝え。よさを認め合う

気付いたことを伝え、自分や相手のよさを認め合うこと、つまり双方向で表現のやりとりを行うことにより、児童は、自分や相手に対するよさや気付きを深めることができると考えた。そして、自分や相手へのよさや気付きの深まりは、人に認められているという自信や、自他を認め、受け入れようとする態度の育成につながると考えた。

学習活動の工夫

- ・互いによさや気付きを伝え合う場の設定を工夫する。（パチパチタイムなど）
- ・発表方法を工夫し、個に応じた支援をする。（発表形態、自己評価カードなど）

【学校探検でお世話になった2年生を縁日に招待した例－第1学年】

1単位時間の終末にパチパチタイムを位置付け、活動を通して感じた自分や友達によさや気付きをグループ内で積極的に発表し合うよう促した。さらに、他のグループにも話したいよさや気付きを発表し合う場を意図的に設けた。「〇〇さんにわりばし鉄砲の作り方を教えてもらって、上手に作れた。」「みんなでがんばったから、たくさんくじが作れた。」など、自分や友達によさを伝えることができた。

そして、縁日終了後、お店回りを一緒にした1・2年混合のグループで、振り返りカードを記入する場を設けた。振り返りカードでは、がんばったこと、楽しかったこと、よかったことなど肯定的な視点を設定した。教師も児童のよさや気付きを見取り、価値付けたり、意義付けたりすることに努めるとともに、全体にも広げたり、意味付けなどをするようにした。このカードをもとに、グループのパチパチタイムを設けた。さらに、全員が一言感想を発表し合う場を設定した。「2年の〇〇さんは優しかった。一緒に魚釣りをやって、いっぱい釣って嬉しかった。」「1年の店は全部楽しかった。また、たくさん景品がもらえてよかった。」など、1・2年相互に自分や友達によさやかかわりの楽しさを伝えることができた。

【ろう学校の児童と共に計画・準備・祭りをした例－第2学年】

1単位時間の終末に、自分や友達によさや気付きを認め合うパチパチタイムを位置付けた。そして、振り返りカードを活用し、自分や友達によさ、がんばったことや授業の感想を記入する時間を設定した。「ろう学校の〇〇さんと一緒にくじを作ったことが楽しかった。」「〇〇さんはアイデアがよくて、金魚の作り方を一生懸命考えていた。」など、自分や友達によさを詳しく伝え合うことができた。さらに、活動の振り返りを重ねるごとに、より細かいことに気付き、よさを認め合うことができるようになっていった。



〈1、2年混合のグループ〉

えんにちふりかえりカード

けんがでかんぱしのこと けんがでかんぱしを つくったこと	けんがでかんぱしを つくったこと
けんがでかんぱしを つくったこと	けんがでかんぱしを つくったこと

ふりかえりカード

11月7日（火）

- きょうじふんがしたことや、かんぱしたことをかきましよう。
アイロンビースでうであをくるときに、かんぱした。
- きょうのしゅうは、たのしかったですか。
わけ
しょういんのときにくじのしゅうは、たのしかったですか。
- ともだちのよいところをみつければ、かきましよう。
くんが
くんにありが
あめつりたき、あめをあげて
いた。

【保育園児を縁日に招待した例ー第2学年】

1単位時間の終末に、自分の活動を項目ごとに細かく自己評価し、グループの友だちの活動のよさを振り返りカードに記入する時間を設けた。そして、パチパチタイムを位置付け、失敗や批判よりもよさを認め合うよう促した。「みんなできちんと活動できた。」「〇〇君は、最後に生活科ルームをきちんとそうじしていた。」など、自分はもちろん、友だちの活動もしっかり見つけ、伝えていた。そして、縁日終了後に今までの活動を肯定的に振り返って感想を書くよう促し、自分や友だちのよさを認め合う場を設定した。「保育園の子が来たから、がんばった。」「今度は違うお店をやってみたい。」「もっと面白い店をやりたい。」「また、力を合わせてやりたい。」など、かかわりの楽しさを味わい、今後への意欲をもつ姿が表れた。

こどもえんにちをしよう！ (9)月(19)日 金曜日

きょうの かつどうを ふりかえってみよう	
じぶん のこと	
ともだちと たのしく できましたか。	○
すすんで いろいろなことを しましたか。	○
じぶんから ともだちへ はなしかけましたか。	○
じぶんの おもっていることを ともだちに はなしましたか。	○
(◎よくできました ○だいたいできました △すこしでがんばりました)	
きょうの かつどうで がんばったことや うれしかったことを 書こう。	
みんながいろいろけんめいがんばって たのしくかつどうしました。	
ともだちのこと	
() さんのよかったところは、みんながいろいろかきを あわせて やってたところか。	
() さんのよかったところは、じぶんがいろいろか きをして、いろいろなけんめいがんばったところか。	
() さんのよかったところは、みんながいろいろか きをして、いろいろなけんめいがんばったところか。	
() さんのよかったところは、	
() さんのよかったところは、	

みんな じぶんがいろいろかきをあわせてがんばったね。

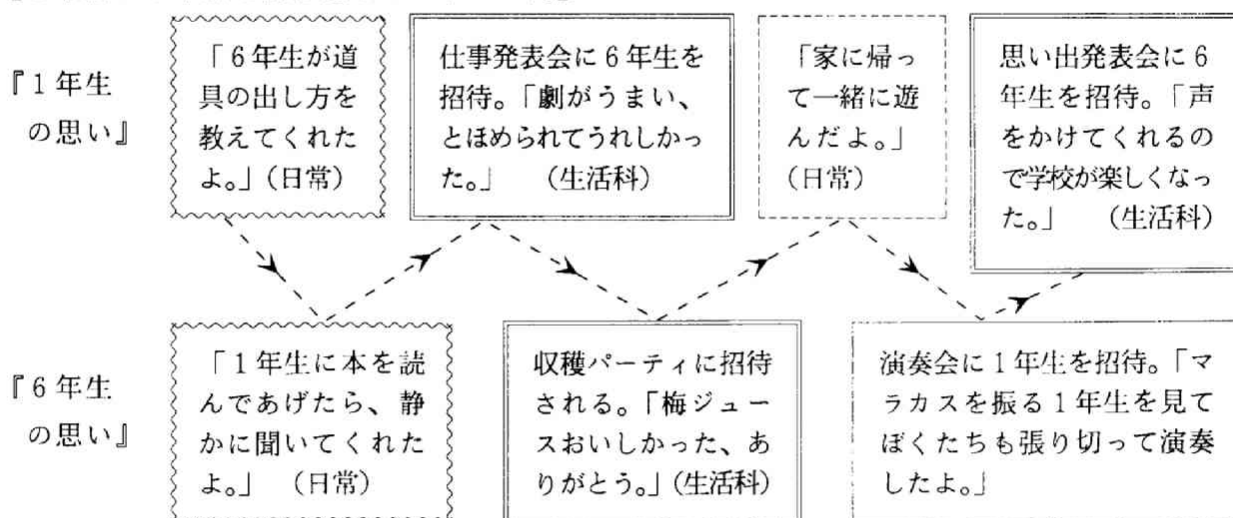
(4) 繰り返しかかわる

人とかかわる時、一度会っただけでは相手に対して親しみをもち、相手のよさや自分との違いに気付いたりするのは難しい。何度も繰り返しかかわりをもつことでだんだんと相手のことが分かり、親しみをもち接していくうちに相手の考えも尊重できるようになっていくと考えた。

学習活動の工夫

- ・繰り返しかかわることを生活科の年間活動計画に位置付ける。
- ・児童がかかわりへの願いをもった時にそれを生かせるようなゆとりある計画を立てる。
- ・日常的なかかわりを大切にする。

【1年生が6年生と繰り返しかかわった例】



◎入学当初の出会いがきっかけとなって繰り返しかかわる活動を行った。1年生は6年生に対し心を開き親しみをもち接している。6年生も思いやりの気持ちや最上級生としての自覚が深まった。

3 人とのかかわりの深まり、広がりを見取る工夫

(1) 目的

研究仮説で示した「児童の学びの姿」を視点とした学習活動を工夫することにより、「人とのかかわりの深まり・広がり」を見取り、より活動が深まるように支援すると共に、学習活動の工夫が適切であったかを評価し、事後の指導に生かすために次のような見取りの工夫を行う。

(2) 方法

児童自身の学習カードや振り返りカード（自己評価）の工夫、視聴覚機器の活用、教師の観察による見取り表の活用により、児童のつぶやきや表情、行動などを計画的に記録する。また、1単位時間ごと及び単元全体を通して、2通りの個表（見取り表）を作成しながら意図的に児童の変容を見取る。

(3) 見取り表

① 単元を通した観察対象児を決める。

単元全体を通して、児童の変容を探るため、観察対象児を中心とした人とのかかわりを見取っていく。

【例】単元名「わたしの大好きな家族」（第1学年）：太梓部は学習後に記入

児童名	育てたい児童の姿 自分の思いを相手に伝え自信をもって活動することができる				
日付	活動への思いや願い	期待するかかわり	かかわりへの思いや願い	かかわりの様子	自分や相手のよさへの気付き
9/18	靴洗いが上手になりたいな。	名人に教えてもらいたいことが自分で聞ける。	・名人に教わって靴洗いが上手になりたい。みんなの靴を洗ってあげたい。・名人から手紙が来たよ。電話してお願いしますって言いたいな。	「みんなてしゅっしゅっという音を聞きながらやってたら、とても楽しかった。」 「バケツが重かったけどみんなで持ったら大丈夫だった。」	・一生懸命ぼくはがんばった。
10/5			・靴洗いをみんなに教えてあげたいな。	「靴洗いを教えてあげたら、みんなの靴もとってもきれいになって喜んでくれたからうれしかった。」	・S君は最後まで一生懸命洗ってとってもきれいになった。

② 1単位時間でのかかわりを見取る観察対象児を決める。

全員分の名前を入れて、1単位時間に数名ずつ意図的に見取り、その単元が終わる頃までに全員の見取りができるようにする。

【例】単元名「わたしの大好きな家族」（第1学年）：太梓部は学習後に記入

児童名	育てたい児童の姿	活動への思いや願い	かかわりへの思いや願い	かかわりの様子	自分や相手のよさへの気付き
Y児	友だちに思いを伝えながら行動できる。	縫い物	縫い物名人に教えてもらって家の人にプレゼントしたい。	「名人と一緒にうれしかった。」 「友だちが教えてくれてうまくいってうれしかった。」	・友だちがわからない時に教えてくれてうれしかった。 9/18
U児	友だちのよさに気付き認める。	アイロン	家ではやったことがないから教えてもらうのが楽しみ	「名人がいっぱいほめてくれてうれしかった。」	・Yさんがいっぱい教えてくれた。とっても上手なんだよ。 9/18

4 実態調査

(1) 調査の目的

児童が友達や地域の人とどのように、どの程度かかわっているかを探るために、1・2年生を対象に実態調査をした。

(2) 調査の方法

調査対象 都内公立小学校12校 1・2年生児童 回答数 1年生449名 2年生322名

調査方法 多岐選択法及び自由記述と聞き取り

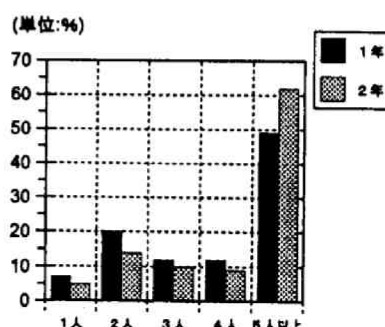
10月の晴天の水曜日の翌日に実施

(3) 結果と考察

問1 何人の友達と遊ぶと楽しいですか。

①1人 ②2人 ③3人 ④4人 ⑤5人以上

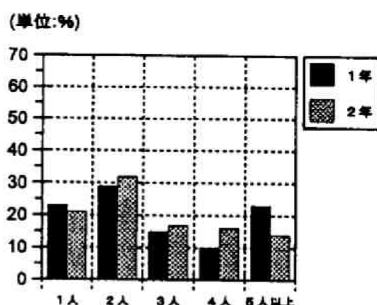
5人以上と答えた児童が1年生で約50%、2年生で約60%と最も多く、多人数で遊ぶことを好む児童が多いことが分かった。次に多いのが、2人である。とくに1年生では、20%が2人と答えている。2人なら大勢で遊ぶより、意見の対立が生じることが少なくなり、自分の思い通りに遊べるためであるうか。



問2 昨日は、何人で遊びましたか。

①1人 ②2人 ③3人 ④4人 ⑤5人以上

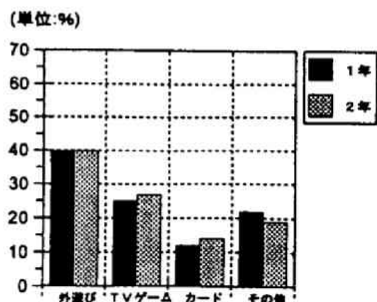
問1では、5人以上の大勢での遊びが楽しいと答えた児童が多いが、実際5人以上で遊んだのは、1年生で23%、2年生では14%と少なかった。大勢で遊ぶ場所がなかったり、習い事があったり、大勢が集まるのは難しいのかもしれない。同様に、1人が楽しいと答えたのは10%未満だったにもかかわらず、実際には1人遊びが1年生で23%、2年生で21%であった。調査対象校の中には、遠距離通学が多いため近所に遊び相手がいない場合もあるが、1人で遊べるTVゲームなどがあることや、約束をうまくできないなど、コミュニケーション能力不足の影響等が考えられる。



問3 昨日は、何をして遊びましたか。

①外遊び ②TVゲーム ③カード ④その他

アンケートは晴れた日の翌日にとったが、外遊びをしたのは、1年生40%、2年生39%であった。内遊びの主流であるTVゲームは、1年生25%、2年生27%という数字で、相変わらず人気がある。暑くなったり、寒くなったりすると、この数字はさらに増えるのではないかと。TVゲームの場合、たとえ友達と一緒にだとしても、かかわりは薄くなり、一人遊びに近い。また、『その他』として、

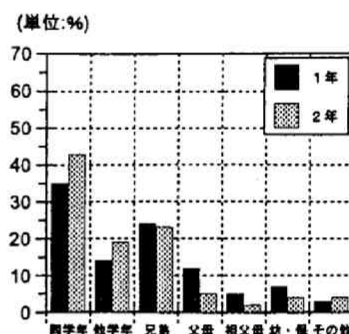


ピアノを弾いたり昼寝をしたりすることも内遊びと考えていることが聞き取りから分かった。

問4 昨日は、誰と遊びましたか。

- ①同学年 ②他学年 ③兄弟 ④父母
⑤祖父母 ⑥幼・保育園 ⑦その他

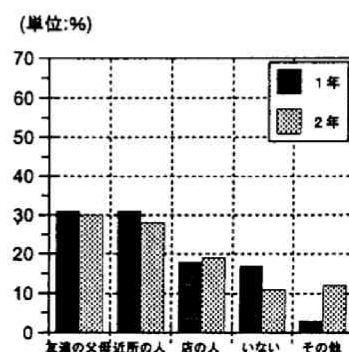
同学年が多く、1年生35%、2年生43%であった。クラスの中に仲の良い友達ができることが要因であろう。父母と遊ぶ児童は、1年生12%に対して2年生5%である。この頃から父母から離れ、友達と遊ぶ方を好む傾向が顕著になるといえよう。2年生になるとかなり交際範囲が広がるといえる。祖父母とのかかわりは少なく、お年寄りとの出会いは児童にとって新鮮なかかわりになるとと思われる。



問5 家族や先生の他によく話をする大人は誰ですか。

- ①友達の父母 ②近所の人 ③店の人
④いない ⑤その他

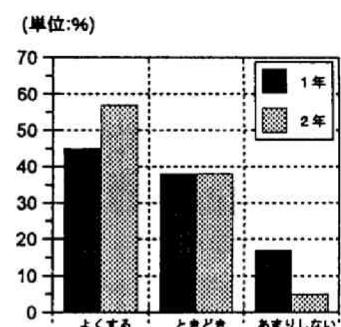
近所の人、店の人、友達の父母と自宅近くの地域の人で、1・2年生とも80%に達する。地域の人との言葉のやりとりはできているといえる。しかし、よく話をする人が『いない』が、1年生で17%、2年生で11%いた。地域の人との触れ合いが少ない児童に機会を与えることが必要である。



問6 家の近くで、知っている人に会った時、あいさつをしていますか。

- ①よくする ②ときどきする ③あまりしない

①よくすると②ときどきするを合わせると80%以上になる。あいさつは、人とかかわりの第一歩であり、今後も繰り返しあいさつの励行を指導していくことが必要であろう。あいさつを『よくする』児童は1年生45%に対して、2年生では57%と増加し、『あまりしない』児童は1年生17%から2年生5%に減少する。



2年生になると、1年間の学校生活の経験を通して、視野が広がり、自分から人に働きかけようという気持ちも芽生えてくるからであろう。

児童に「友達と遊んでいて楽しいのはどんなときですか。」という聞き取り調査を行った結果、鬼ごっこやサッカー、ドッジボールなど、比較的大勢で遊ぶ遊びが楽しいと答える児童が多かった。楽しいと感じる理由はさまざまだが、友達に「上手だね」「強いね」と認められるうれしさや友達との教え合いの楽しさをあげる児童も少なくなかった。遊びの中で人とかかわることによって、自分はできるんだとか、自分は人の役に立っているという自分自身への気付きが生まれ、自分に対する自信をもつことにつながるからであろう。

5 年間活動計画について

(1) 年間活動計画作成の視点

本研究で重視した学習活動の工夫をもとに、児童が人とのかかわりを深め、広げる年間活動計画作成の視点を以下の4点にまとめた。

【視点①】児童のかかわりへの思いや願いが、他の活動につながる単元の配列を工夫する。

児童がある活動で人とのかかわりを深めると、他の活動でも同じ人へのかかわりへの願いをもって、新たな活動を展開することが考えられる。このような児童のかかわりへの思いや願いが連続し、発展していけるような単元配列を工夫する。

【視点②】具体的な活動や体験がより豊かになるような人とのかかわりを位置付ける。

人とかかわることのみを目的とした単元設定をすることは、活動内容を狭め、児童の思いや願いの広がりも乏しくなると思われる。8つの内容項目に対してどのような人とかかわることで具体的な活動や体験が深まるか、地域や児童の実態を考慮して単元を構成し、年間活動計画案に位置付ける。

【視点③】ゆとりをもち、相互に意義のある活動を位置付ける。

児童が共に活動するよさを味わうには、十分にかかわり合えるゆとりが大切である。また、児童とかかわりをもつ相手やその指導者に、活動を負担に感じさせては繰り返しかかわることは難しくなる。無理のないゆとりある計画であると同時に、特に異学年や他校種の児童・生徒とのかかわりでは、かかわる相手の学習活動との接点をとらえ、相互に意義をもてるようにする。

【視点④】2年間を見通して、身近な人々と繰り返しかかわる活動を位置付ける。

校内、異学年、家族、地域の人々と、2年間のスパンの中で繰り返しかかわれるように、位置付ける。

(2) 年間活動計画の作成

上記の視点①から視点④及び学習指導要領の8つの内容項目(1)から(8)、さらに10の具体的な視点アからコを踏まえ、児童や地域の実態の異なる2校の年間活動計画案を作成した。

IV 実践事例

1 第1学年「わたしの大好きな家族」(11時間)

(1) 単元のねらい

- 家族の温かさや家族の大切さを感じ、家庭生活に関心をもつことができる。
- できるようになりたいことを見付けて進んで取り組む。
- できるようになったことを家庭生活に生かそうとする。

(2) 育てたい児童の姿

〈家族とのかかわり〉

- ・家族の仕事に関心をもって一緒にやってみようとする。
- ・役立っていることに喜びを感じ、進んで仕事をする。
- ・家族のよいところや得意なことに関心をもち、話してくれることを聞こうとする。

〈友だちとのかかわり〉

- ・一緒に仲良く活動しようとする。
- ・友だち同士で教え合ったり、できるようになったことを認め合ったりする。
- ・友だちの家族のよさに気づき、伝え合う。

〈友だちの家族(GT)とのかかわり〉

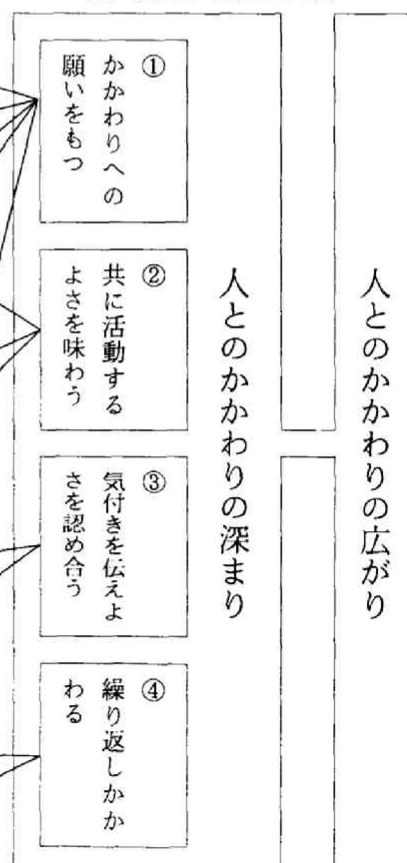
- ・友だちの家族と親しみをもって接する。

(3) 本单元における学習活動の工夫

〈学習活動の工夫〉

ア. 夏休み発表会を開き家族と共に過ごした楽しさやよさを思い出す機会をつくる。
イ. 友達の家族(GT)に実演をしてもらいかかわりへの意欲につなげる。
ウ. 友達の活動がよく見えるように同じ思いをもった少人数のグループを構成する。
エ. 『名人からの伝言』という形でGTからグループの児童にむけて手紙を送ってもらい意欲を高める。
オ. GTに教えてもらい、認めてもらうことによって『できる』という自信につなげ家庭でも実践してみようという意欲につなげる。
カ. 発表会(パビリオン形式)を開き、家庭での実践を教え合う場をつくる。
キ. 活動を振り返り自分のがんばりや友達のよさなどを書き込めるカードを活用する。
ク. 家庭で自分がやってみたことを教え合いお互いのよさに気付くことができるようにする。(パチパチタイム等)
ケ. 『チャレンジさせてねカード』を作り、家族とふれあいながらGTに教えてもらったことを継続しようという意欲につなげる。
コ. GTに自分がやってみた感想やできるようになった思いを自分なりの方法で伝える。

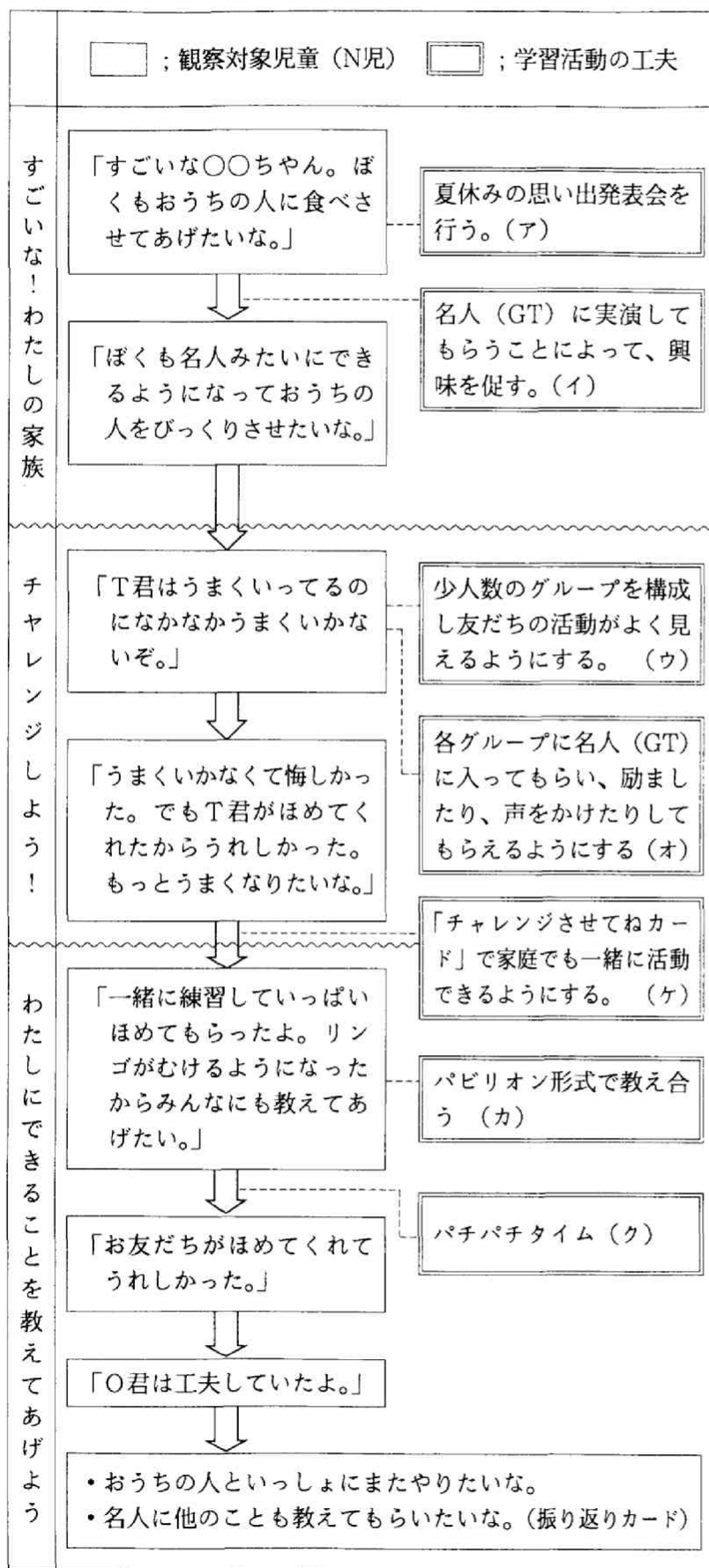
〈育てたい児童の姿〉



(4) 活動計画 (11時間)

児童の活動 ☐ ; 家庭での活動 ☐ ; 児童の姿 () ; 学習活動の工夫	主にかかわる人
【活動のきっかけ】(朝の会などで) ・『夏休みの思い出発表会』を行い、家族と過ごして楽しかったことを発表する。	・ 友達
すごいな！わたしの家族 (4時間) (ア・イ・ウ・エ) ・ 家族のよさや得意なことを発表する。 ・ 友達の家族の技を見せてもらう。 ・ 自分でやってみたいことを決める。 ・ 教えてもらう人をお願いの方法を考える。 「〇〇君のお母(父)さんに教えてもらいたい。」(視点①)	・ 家族 ・ 友達
チャレンジしよう！ (4時間) (ウ・オ・キ・ケ・コ) ・ 友達の家族(名人)に教えてもらう。 ◇家の仕事(アイロンがけ・料理・靴洗・食器洗い・洗濯など) ◇家族と一緒に楽しむこと (マスコット作り・割り箸でっばうなど) ・ 家庭で活動する ・ 家でチャレンジしたことを発表する。 グループに分かれて、それぞれが工夫した方法で自分が家庭で取り組んだチャレンジを発表する。 (紙芝居・ペープサート・実演・絵をかくて説明するなど) ・ 教えてくれた人に家でやったことを知らせる(手紙など)。 「〇〇さんのお母(父)さんにほめてもらってうれしいな。」(視点②) 「〇〇君が手伝ってくれてうれしかった。」(視点②③) 「家でもやってみよう」(視点①) 「もっと他のこともやってみよう。」 「喜んでくれてうれしかったな。またやりたいな。」(視点①④)	・ 友達の家族(GT) ・ 友達 ・ 家族
私のできることを教えてあげよう (3時間) (ウ・カ・キ・ク・コ) ・ 家族に自分のできることを教えてあげる。 家庭の仕事に限らず、自分にできることで家族と共に活動して楽しむ。 (GTに教えてもらったこと・折り紙・あやとり・マスコット作りなど) ・ 家でやってみたことを友達にも広める。 (同じ活動をするもの同士でグループを作る。) (パビリオン形式で発表するものと聞くものに分かれて行う。) (パチパチタイムでよさを認め合う。) 「またリングをむいてあげよう。」 「今度は家族に折り紙を教えてあげてあげたいな。」(視点①④) 「おばあちゃん(おじいちゃん)とやったあやとりをみんなにも教えてあげよう。」(視点①) 「〇〇君は一生懸命教えてくれたよ。」 「△△さんが教えてくれたこと楽しかった。」(視点②③)	・ 友達

(5) 学習活動の工夫と児童の変容



(6) 観察対象児童 (N児) の変容

『夏休み思い出発表会』の中で、「おうちの人にリンゴをむいてあげたらとっても喜んでくれた。」という友達の発表を聞いて、N児は（ぼくもリンゴをむいておうちの人を喜ばせたいな。）という活動への願いをもった。

『技を見せてもらおう』の中でGT（名人）のリンゴむきをじっと見つめていたN児は、「すごいねえ。上手だねえ。」と感激していた。そして「ぼくもあんな風にむいておうちの人をびっくりさせたい。名人に教えてもらってうまくなりたいな。」（視点①）という願いを強くしていた。また『名人からの伝言』で「難しいけれど、むけるようになっておうちの人に食べさせてあげたらきっと喜んでもらえるよ。いっしょにがんばりましょうね。」という手紙をもらい、「手紙が来たよ。ぼくもお願いしますって電話をかけたいなあ。早く一緒にやりたいなあ。（視点①）」と名人と活動することを楽しみにしていた。

『チャレンジしよう』の中でN児は、名人の手先をよく見てまねようとした（視点②）

「家でやってみたよ。」と言って器用にむいている友達の様子をじっと見たりしていた。（視点②）

やってみるとなかなかうまくいかず、活動に飽きてしまったところも見られた。しかし、同じグループの友達からの「がんばれ。」「もう少しできそうだねえ。」「うまいねえ。」「がんばったね。」との声かけで気持ちを取り直していた。（視点②）

活動の後で「みんなに食べさせてあげようよ。」とグループの友達に声をかけていた。クラスの友達に「自分でむいたの？」「すごいねえ。」と認められ、「リンゴチームでよかったね。」と喜んでいて。また、「T君は上手だったね。ぼくはなかなかうまくいなくて悔しかった。」とつぶやいていたのに対して、T君から「全部自分でむいてN君もえなかったじゃない。手伝ってくれてうれしかった。」と認められとてもうれしそうにしていた。（視点②）

N児にとって『りんごの皮むき』は、かなり高い壁であった。しかしグループの友達に認められたり、励まされたり、名人に手伝ってもらったりすることによって、がんばろうという思いをもつことができた。そして「もっとうまくなりたいな。」と自分の思いを表現していた。

N児は、（おうちの人と一緒にやってみたいな）という気持ちをもっており、『チャレンジさせてねカード』によって家庭での協力を仰いだ。家庭でも取り組めるようにし、励ましてもらったり、一緒に楽しんだりすることができたことで、N児は「発表会ではうまくなった技を披露したいな。」という思い（視点①）をもつまでになった。

『パチパチタイム』では「とっても上手でびっくりしたよ。」とほめられたり、『チャレンジしよう』で一緒に活動したT児から「上手になったね。いっぱい練習したんだね。」と認められたりして、とても満足そうな顔をしていた。（視点③）

これまでなかなか友達のよさを見付けることができなかったN児であったが、「O君は包丁じゃなくて、簡単にやる工夫をしてたよ。」（視点③）と友達の工夫を認めていた。友達からがんばったことを認められたことで自信をもち、自分も友達のよさを見付けて発表しようと思えるようになった。そして達成感を得たことで、できるようになったことを「名人に教えてあげたいな。」と手紙を書いて知らせたいという願いや、「他のことも名人とやってみたいな。」というかわりへの願いをもつことができた。（視点①④）

(7) 活動を終えて

家族の得意技を自分でもやってみたいという思いのもと『チャレンジしよう』の活動を行った。小グループで友達の活動がよく見えたことや、一人ずつGTに入ってもらって言葉をかけてもらったり、認めてもらったりしたことで、児童は自分の活動をふくらますことができ、自分の家族にも見せたいという思いを強くもつことができた。そして家族に認められたり、友達に認められたりする（パチパチタイム）ことで、自分のできることに気付き、自信をもち友達を認める心のゆとりが見えるようになってきた。そして帰りの会で友達のよいところを発表するなど、日常生活の中でも友達のよさを見付けようという気持ちが芽生えてきた。また「名人と会って、『靴洗いがんばってるよ。』って言ったよ。」というようにGTと触れ合ったことで親しみをもち声をかけられるようになった。

また、本单元では児童の人とのかかわりを見取るために、観察対象児を中心に児童一人一人の個表を活用し、個に応じた適切な支援を行えるようにしてきた。すべての児童を見取り、同じように支援していけるよう、今後も見取る工夫をして適切な支援に生かせるよう考えていく必要がある。

2 第2学年 単元名 「わたしたちのまつりをしよう」 (15時間)

(1) 単元のねらい

- 自分たちのまつりを通して、進んで身近な人とのかかわり、一緒に楽しむ。
- 身近な材料を利用して、まつりに使うものを工夫して作る。
- 自分たちのまつりを楽しみながら、自分のできることや身近な人のよさに気付く。

(2) 育てたい児童の姿

<友達(ろう学校の友達を含む)とのかかわり>

- ・友達のよさに気付き、互いに協力して活動する。
- ・活動の中で互いのよさを認め合い、自信をもつ。
- ・今後の活動で、またかかわりたいと思う。

<ろう学校の友達とのかかわり>

- ・ろう学校の友達を理解し、親しみをもって接する。

<おまつりにきてくれる身近な人(異学年、教職員、保護者、幼児)とのかかわり>

- ・おまつりに来てくれる身近な人に進んで話しかけ、親しみをもって接する。

(3) 本単元における学習活動の工夫

<学習活動の工夫>

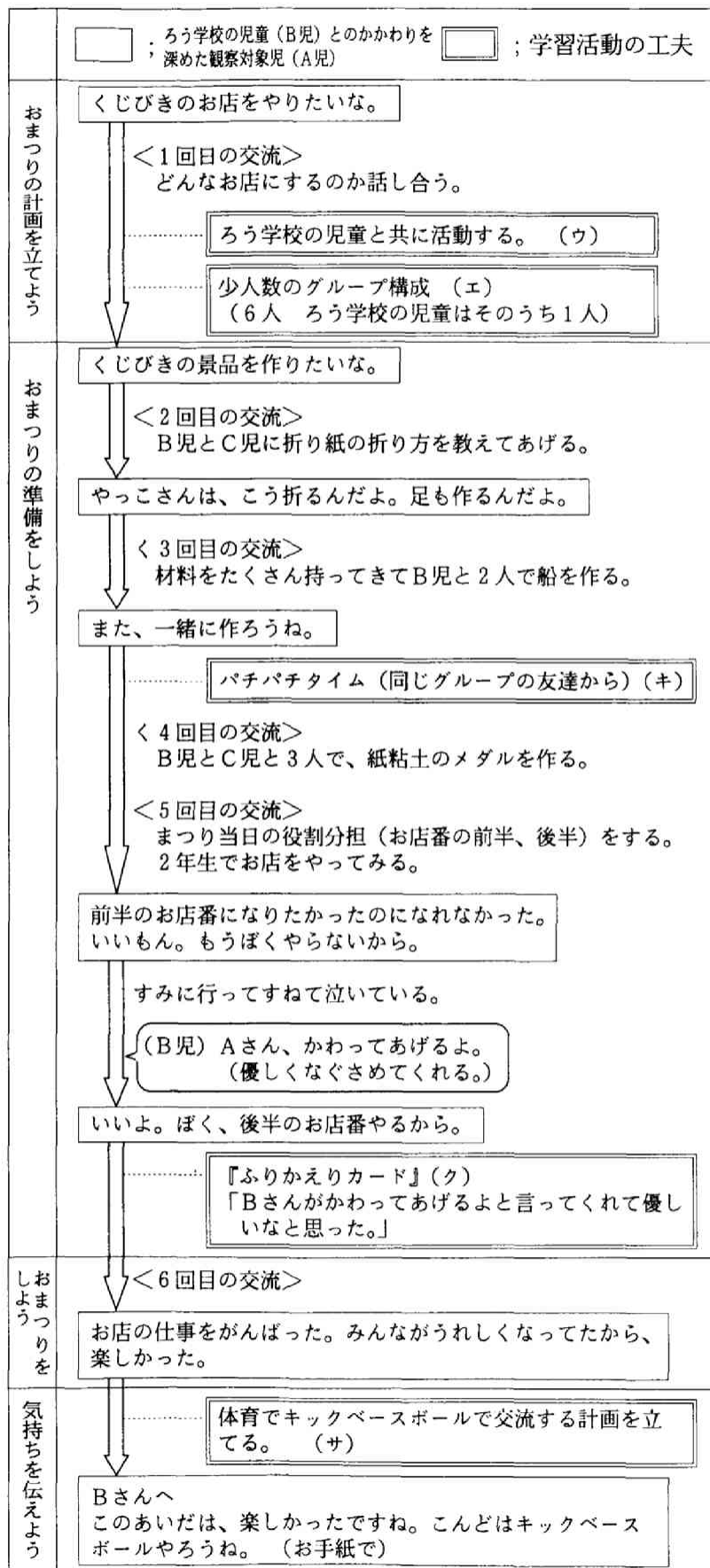
<育てたい児童の姿>

ア. 学級の友達やろう学校の友達と、「協力してがんばろう。」という願いをもてるようにするために同じ思いや願いをもったもの同士がグループを構成できるようにする。	① かかわりへの 願いをもつ	人 と の か か わ り の 深 ま り	人 と の か か わ り の 広 が り
イ. 自分達が計画したおまつりに、だれにお客さんとして来てほしいか話し合うようにする。その人達におまつりを楽しんでもらうために活動できるようにする。	② 共に活動する よさを味わう		
ウ. ろう学校の児童をおまつりに招待するだけでなく、学級の児童と一緒にまつりを実施する仲間として共に活動できるようにする。	③ 気づきを伝え よさを認め合う		
エ. 協力することの必要性、協力することの楽しさを感じることができるようするために、少人数のグループで活動する場を設定する。	④ 繰り返し かかわる		
オ. 児童とろう学校の児童とが共に円滑に活動を進められるように、活動の流れや活動の内容を紙に書くなどして視覚的にとらえられるようにする。			
カ. おまつりを実施する側、招待される側が共に楽しめるように、オープンスペースを活用し、ゆとりのある活動しやすい場を設定する。			
キ. 互いを認め合うために、自分や一緒に活動した友達のがんばったことやよさを発表できる時間を設定する。(パチパチタイム)			
ク. 自分のがんばったことや工夫したこと、友達のよいところなどが書き込めるカードを活用する。(ふりかえりカード)			
ケ. おまつりの後に、友達やおまつりにきてくれた人へ自分なりの方法で気持ちを伝える。			
コ. ろう学校の教員とは、一緒におまつりを実施することが可能なのか、また、児童同士と一緒に活動する際の配慮事項などを話し合う。互いに無理なく、継続して活動の機会がもてるよう授業の内容や準備するもの、行事予定や時間などについての打ち合わせを十分に行う。			
サ. 学校行事や他教科とも関連付けて、ろう学校とのかかわりが継続するように計画を立てる。			

(4) 活動計画 (15時間)

児童の活動 ; 児童の姿 (); 学習活動の工夫	主にかかわる人
【活動のきっかけ】 (朝の会などで) - 地域の秋まつりへ行った経験を話し合う。 - 昨年度2年生からおまつりに招待されたことを思い出す。 11月に学校行事としてフェスティバルがある。 おまつり楽しかったね。わたしたちのまつりをしようよ。	学級の友達
おまつりの計画を立てよう (2時間) (ア・イ・ウ・エ・オ・コ) - おまつりでどんなことをしたいのか話し合い、 〇〇さん、一緒にお店をやろうよ。(視点①) グループを編成する。 - おまつりのお店は、どんなお店にするのか、 どんなお店にするか一緒に考えよう。(視点②) どんな準備が必要なのか話し合う。 - 材料を準備する。 おまつりに〇〇さんを招待したいな。(視点①)	- 学級の友達 - ろう学校の友達 - 教員
おまつりの準備をしよう (8時間) (ウ・エ・オ・キ・ク・コ) (準備⇒お店・ポスター・コマーシャル・招待状) 協力したからうまくいったね。(視点②) - だれを招待したいのか話し合う。 〇〇さんは、絵を描くのが上手だね。(視点③) - 相談しながら工夫して作る。 きょう、わたし〇〇が上手にできたよ。(視点③) - 自分たちが作った店で遊ぶ。 次の時間は、〇〇と一緒に作ろうね。(視点④) - グループでアドバイスをし合い、さらに工夫する。 - 招待状を作り、渡す。 早くみんなとおまつりをしたいな。(視点①) - おまつりを実施する時の役割を、分担する。	- 学級の友達 - ろう学校の友達 - 教員 - 図工専科の教員
おまつりをしよう (4時間) (ウ・エ・オ・カ・ク) - おまつりの会場の準備をする。 お客さんに遊び方を教えてあげる。(視点②) - 招待したお客さんと、楽しくおまつりをする。 みんなといっしょだから、楽しくできた。(視点②) - 後片付けをする。 〇〇さんたちのお店は、おもしろかったよ。(視点③)	- 学級の友達 - ろう学校の友達 - 教員 - 異学年の友達 - 学校の職員 - 保護者
気持ち伝えよう (1時間) (キ・ケ・サ) - まつりに来てくれた人や仲良しになった人に自分なりの方法で気持ちを伝える。 (手紙、カードなど) おまつりに来てくれてありがとう。うれしかったよ。(視点③) また、一緒に遊んだり勉強したりしようね。(視点④)	- 学級の友達 - ろう学校の友達 - 教員 - 異学年の友達 - 学校の職員 - 保護者

(5) 学習活動の工夫と児童の変容



(6) 観察対象児童 (A児) の変容

A児は、友達と遊ぶことや作ることが大好きな児童である。素直であるが自分の思い通りにならないとすぐにすねてしまうことがある。そこで、友達と協力して活動する楽しさを実感できるよう、単元を通して見取っていくことにした。

「くじびきのお店をやりたい。」という願いをもち、くじびきグループに入ったA児は、「おまつりの準備をしよう」で景品を作った。

<3回目の交流>では、プラスチックの容器やカップなどをたくさん持ってきて、B児と2人で船を作り始めた。「ここにこれを付けよう」「ビニールテープを張って。」と2人とも夢中になって作っていた。出来上がるととてもうれしそうに、A児は、B児に「また、一緒に作ろうね。」と声をかけていた。2人で作り上げた満足感を味わっていたと思われる。(視点①②) また、パチパチタイムで同じグループの友達から「2人で船を作っていて、仲良しだなと思いました。」と友達に認めてもらってうれしそうな表情をしていた。(視点③)

<5回日の交流>で店番の前半と後半を決めた時、前半の希望者が多く、グループでじゃんけんをしたところ、A児は負けてしまった。「もうやらない。」と、すねて教室の隅で泣いてい

ると、心配したB児が自分はじゃんけんに勝っていたので「かわってあげるよ。」と声をかけた。B児に優しく声をかけてもらったことで、A児は、「後半でもがんばってやろう。」という気持ちになれたのだと思われる。(視点②) その日の「ふりかえりカード」で、「B君がかわってあげるよと言ってくれて優しいなと思った。」と、B児の優しさを認めている。(視点③)

おまつりの後の『気もちを伝えよう』では、A児は、B児に手紙を書いている。この単元を通してすっかりB児と仲良くなったA児は、「こんどは、キックベースボールをやろうね。」と、次の活動を楽しみにするようになった。(視点①④)

(7) 活動を終えて

〔共に活動する〕

本単元では、児童がおまつりでお店を出したいということで、同じお店を出したいもの同士がグループを構成した。最初にどういうお店にするのかグループで話し合う時間をとったが、それぞれの思いがあり、話し合いはなかなかまとまらず、ろう学校の児童ともコミュニケーションをとりながら話し合いを進めるのは難しかった。

次の時間は、それぞれが材料を持ち寄り作り始めたが、言葉はなくても作りながら自然とかかわりが生まれ、ろう学校の児童も「楽しかった。」と話していた。児童の思いや願いに応じて共に活動することから始めることの大切さを実感した。

〔パチパチタイムとふりかえりカード〕

活動の終わりには、自分や一緒に活動した友達のがんばったことやよさを発表する時間(パチパチタイム)を設定した。ここで児童は、友達の気付きを知ったり、友達に認められて自分に自信をもったりすることができた。D児は、パチパチタイムでは、なかなか発言できなかったが、『ふりかえりカード』には、「紙粘上でペンダントを作るのをがんばりました。」と自分のがんばりを振り返ったり、「Eさんは、一生懸命松ぼっくりのツリーを作っていました。」と友達のよさを認めたりしていた。

パチパチタイムと『ふりかえりカード』を両方行ったことで、児童一人一人の見取りに役立ち、支援に生かすことができた。ただ、毎時間両方を行わなければならないのではなく、活動に応じて児童の負担にならないよう、ゆとりをもって設定することが大切であると感じた。

〔単元を通した、ろう学校の児童とのかかわり〕

ろう学校の児童とは、今までもお互いの学校行事に招待し合ったり、ゲーム交流をしたりと、頻繁に交流をしてきた。しかし、どうしても単発のイベント的な交流に終わってしまいがちであり、児童は顔や名前を知ってはいるものの、互いにもう一步先へ踏み込めないでいた。今回は、単元の最初からおまつりの実施まで、合計6回の交流であった。単元を通して繰り返し交流し、おまつりに必要なものを協力して作り上げていく過程の中で、かかわりの必要性が生まれ、児童は、共に活動する仲間として互いを意識するようになった。児童の「お店をやっているうちに、いつのまにか仲良くなれた。」という声からも、自然とかかわりが深まっていった様子が分かる。また、双方の児童が「仲良くなれた。」「一緒にやって楽しかった。」と実感したことで、「一緒にキックベースボールをやるのが楽しみだ。」というように、互いに次のかかわりを楽しみにする声も多く聞かれるようになった。

V生活科 年間活動計画案【A校】

【地域・学校の特徴】昭和40年代ごろ住宅公社によって開発された、多摩川沿いの大きな団地のある地域。校区の南側は団地や小さな公園が多い。北東は一般の住宅地がある。学校内で地域のお年寄りが週2回給食を食べ1日を過ごす（ふれあい給食）。児童数が減少し、現在は単学級（普通学級6）で心身障害学級を併設している。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	お花がいっぱい（15時間）(5) (7)ーカ・キ（アナガオ）〈サツマイモ〉 ・たねをまこう ・水やりしよう ・花がさいたよ ・えなをうえよう ・草とりしよう											
年	いきものとなかよし① (2時間) (1) (7)ーカ ・学校のいきもの 〈ニワトリ〉 〈ウサギ〉											
生	学校たんけん (8時間) (1) (4) (5) (7) ーイ・ウ ・校内たんけん ・校庭たんけん ・みんななかよし ・いっしょに遊ぼう ○2年生○教職員											
全校活動	1年生をむかえよう みんななかよし① ・たてわりグループで遊ぼう みんななかよし② (兄弟学級) ○(1年と6年) (2年と4年)											
2	学校あんない (4時間) (1) ーイ・ウ ・学校たんけん ・いっしょに遊ぼう ○1年生											
年	春さがし (5時間) (3) (4) ーア・イ・ウ ・多摩川たんけん ・遠足に行こう ○1年生 ○駅ではたらく人											
生	夏さがし (2時間) (5) (6)ーア・カ・キ・ク ・水あそび ・砂あそび ・水たまり											
全校活動	子どもまつりをしよう (11時間) (1) (3) (6) ーイ・ウ・エ・オ・ク ・どんなお店にしようかな ・(身のまわりの物を使って)うりものを作ろう ・お店屋さんごっこ											
2	学校あんない (4時間) (1) ーイ・ウ ・学校たんけん ・いっしょに遊ぼう ○1年生											
年	町たんけん (12時間) (3) (4) (5) ーイ・ウ・オ ・お店たんけん ・ぼくわたしの 〈商店、スーパー〉 町じまん ・郵便局、交番など ○地域の人											
生	花ややさいを育てよう (20時間) (5) (7)ーカ・キ ・球根の花がさいたよ ・野菜の苗をうえよう (トマト、レタス、ピーマン、サツマイモ、ダイズなど) ・育て方を調べよう ・育て方を教わろう ○地域の人											
全校活動	1年生をむかえよう みんななかよし① ・たてわりグループで遊ぼう みんななかよし② (兄弟学級) ○(1年と6年) (2年と4年)											

生活科 年間活動計画案【B校】

【地域・学校の特徴】昔は農地が多かったが、現在は住宅地として開発された地域。校区北側の川沿いの傾斜地は緑が多い。隣の学区に緑に恵まれた公園がある。学区内に小売店舗が少なく学区に隣接して、大型スーパーが数店舗ある。学校の裏に児童公園、児童館、敬老館、保育施設がある。児童数が減少している小規模校で、単級の学年が増えつつある。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年 生	がっこうだいすき (15時間) (1) ア・イ・ウ・コ ・あくしゅだいさくせん ・こうていであそぼう ・がっこうたんけん ○2年生 ○全校児童 ○先生 ○主事 あそぼうあそぼうⅠ (10時間) (3) (4) (5) (6) ア・イ・ウ・カ・ク・コ ・あめのひに ・じどうこう えんで ・じどうかん で ○公園利用者 ○児童館職員 いきものとなかよしⅠ (8時間) (7) ーカ ・いっしょにあ そぼう ・いっしょにす ごそう ・チャボさん のおせわをしよう ○2年生 たね、たね、おおきなあれ (16時間) (7) ーカ・キ ・たねまきをしよう ○2年生											
2 年 生	とびだせ！たんけんたいⅠ (18時間) (3) (4) (5) ーア・イ・ウ・オ・キ・コ ・春のしゃく じい公園 ・きんじょのじまん ・まちへとび出そう ・まちであった人をしょうかいしよう ○地域の人 とびだせたんけんたいⅡ (18時間) (3) (4) ーイ・ウ・オ・コ ・まちの名人をさがそう ・名人に教えてもらおう ・みんなに教えよう ○地域の人 しゅうかくしたよ (14時間) (5) (7) ーイ・エ・ク・コ ・おいもほり ・かいものにいこう ・おいもパーティー ○お店の人 ○地域の人 とびだせ！たんけんたいⅢ (8時間) (3) (8) ーア・イ・オ・ケ ・ようち園、 はいく園を ほうもんし よう ・おせわになっ た人に、おれ いに 行こう ○幼稚園、保育園の先生、幼児 ○地域の人 ○友だちの家族 大きくなったぼく、わたし (22時間) (2) (4) (8) ーイ・オ・ク ・ぼく、わたしのれきし ・たいせつな人 ・3年生になったぼく、わたし ・3年生だぞ おい わいしよう ○家族 ○教職員 ○3年生											

VI 研究の成果と今後の課題

1 研究成果

4つの学びの姿を視点として、学習活動を工夫することにより、以下のような成果を授業実践を通して得ることができた。

- 児童は、「リングをむいておうちの人を喜ばせたい。」など対象（活動）への思いや願いがあると、「名人に教えてもらいたい。」という気持ちになり、人とかかわることの願いも増すということが分かった。
- 児童は人とのかかわりを楽しみながら一緒に活動することにより、「やってみよう。」「挑戦してみよう。」という意欲を見せ、気付きを伝え合ったり、協力したりするなど共に活動するよさを生活全般で見せるようになった。
- 児童は振り返りの時間（パチパチタイムなど）を繰り返すことにより、自分自身はもとより相手のよさを積極的に見付け、多くの気付きを得るようになった。
- 児童は繰り返しかかわることによって、相手に対し親近感をもつようになり、「またいっしょにやってみたいな。」などかかわりへの願いが児童の中に生まれやすくなった。

2 今後の課題

- ・ 4つの学びの姿を視点として、よりよい学習活動の工夫を探る。
- ・ 支援をより明確にしていくために見取り表の項目などをさらに工夫する。
- ・ 多様な人とのかかわりを重視した授業を組む際、日頃の地域とのつながり、連携をさらに深めるための方策を探る。